

「このまちに暮らしたいプロジェクト」の活動を見学しました。



12月8日(日)、清々しい冬晴れの空のもと「ワンダふるたパーク」が開催されました。以下、活動の概要です。

主催団体： 「このまちに暮らしたいプロジェクト」
発足： 平成25年9月
イベント： 中学生がつくる冒険遊び場 「ワンダふるたパーク」
会場： 広島市西区 古江西町公園
目的： 中学生が主体となって地域住民とともに、人口減少などの社会課題と向き合い、住み慣れた地域で多様な世代が共生できる持続可能な将来像を描き、そのために、今、住民自身でできる行動を起こす。
また、この取り組みを生かして、社会に主体的に関わり、行動できる人材を育む。

当日、最寄りの市電の駅を降りると、

中学生の発案で、道路の所々に
道案内の幟が設置されていました。



親切な幟のおかげで、迷うことなく、
会場の古江西町公園に到着できました。



ジップラインと宝探しゲーム



会場に入り、まず目についたジップラインと宝探しゲーム。
広島工業大学（広工大）の学生さんがボランティアとして関わり、実施しています。
「いつもの公園にはない遊びだから面白い！」と子どもたちに大人気でした。

古江西町「もちつき大会」(同時開催イベント)



餅つきでは、古江西町子ども会のお父さんもお母さんも大活躍。
子どもたちも列を作り、楽しそうに餅つきを体験していました。
出来上がったお餅は、きなこ、ココア、さとうじょうゆ味で、とても美味しそう！
久しぶりの餅つき風景に、私自身、子どもの頃の餅つきの思い出が蘇り、なつかしい気持ちになりました。

大人も子どももくつろげるカフェゾーン

コーヒーや飲み物を手に、
思い思いに幸せなひとときです。



ゴミの回収



「紙コップは重ねてください」
など、ゴミ分別のルール記載も
分かりやすく、
効率のよいゴミ回収と、
来場者のマナー向上に
役立っていると感じました。

落ち葉のプール



泥が混じっていないので、ふわふわです。
公園のかき集めた落ち葉では、泥だらけで使い物になら
ないため、スタッフの皆さんが算段し、きれいな落ち葉
を別の場所から運び、段ボールで「落ち葉のプール」を
作っているそうです。



白杖の会 目が見えない生活を体験する



アイマスクをして、
お皿からお皿に
食べ物を移すゲームもありました



点字で名前を
書いています



画像では
見えづらいですが、
点字で書いた
名前シールが
貼ってあります

車いす体験と紙芝居



車いすユーザーの皆さんは、
白杖の会の方に誘われ、ワンダふるたパークに
参加するようになったそうです。
体験用の車いすや、紙芝居、ボッチャなどを使
い、地域の皆さんと交流しておられました。



最後に主役の中学生たちです！

来場者のお世話で忙しくされている中、少しでもお話を聞くことができました。

Q： 活動している中学生は、何名くらいですか？

A： 現在、中学3年生1名、2年生6名で活動しています。

Q： 何がきっかけで活動し始めたのですか？

A： もともと友達がメンバーで、自分も参加することにしました。

Q： 今回のイベントは、どれくらい前から準備を始めたのですか？

A： 2か月くらい前から、何度か集まって、内容など話し合ってきました。

Q： 活動の中で何が一番楽しいですか？

A： みんなで色々と考えて、計画したりするのが一番楽しいです。

イベント当日は、皆さん、適宜、持ち場を持ち回りしているようで、飲み物を提供したり、司会をしたり、終始楽しそうに、テキパキと動いておられました。話しかけた私に、途中で「何か飲まれますか？」と気を遣ってくださるような面もあり「自分たちが主体」という意識をしっかりとって運営しているんだろうなあと心から感心しました。プロジェクトの目的に書かれていた通り、子どもから大人まで幅広い世代、色々な背景を持った方々が集まり、自分自身でアクションを起こしていく取り組みは、地道な行動の積み重ねではありますが、今後も、地域に大きな活力をもたらしていくのではないかと思います。

この度は、素晴らしい活動を見学させていただき、ありがとうございました！

(竹岡)